

第5学年3組 音楽科学習指導案

指導者 村越 江利子

1 題材名「日本の音楽に親しもう」

題材名 表現 「子もり歌」(日本古謡)

ことに親しもう「さくらさくら」(日本古謡)

「音階の音で旋律づくり」

2 題材について

- | | | |
|------|-------------------------------|---|
| A 表現 | (1) 歌唱 | ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。 |
| | | イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図を持って歌うこと。 |
| | (2) 器楽 | ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。 |
| | イ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 | |
| | (3) 音楽づくり | イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。 |

[共通事項] ア (ア) **音色 旋律** 拍の流れ 音の重なり **音階や調**
(イ) 反復 問いと答え 変化

《学習指導要領とのかかわり》

(1) 題材観

本題材は、我が国の音楽の特徴を感じ取ったり、固有の音階や児童がこれまでの経験を通して興味を持っている楽器「箏」を通じて、より一層味わったりすることにより、児童の興味・関心を深めていく。

我が国には、中学年で学習してきたお囃子や民謡をはじめ、人々によって昔から守り伝えられてきた様々な音楽がある。それらの音楽や使われている楽器のほとんどは、もともと大陸から他の文化と一緒に伝来して来たものだが、長い時間をかけて日本独特の風土や民族性に合うように改良され、形づくられてきた。ここでは、児童が日本古来の曲の歌唱や箏の演奏学習、音階を使った音楽づくりを通じて、このような音楽文化が我が国にあることに気付き、興味・関心を持ちながら、その特徴を感じ取ったり、その美しさを味わったりするようにしていく。

また、次の題材「アジアの音楽に親しもう」において、起源を同じくする「箏」の仲間の奏法や音色なども鑑賞することで、それぞれの国の風土や民族性によって育まれてきた独自の音楽文化があることに容易に気付いていくと考える。

さらに、中学校1年生で学習する、

「日本の伝統音楽に親しみ、その好さを味わおう。－箏曲－」 鑑賞曲「六段の調べ」

「人々の暮らしから生まれた日本の民謡に親しみ、そのよさを味わおう。」 鑑賞曲「日本の民謡」

「声や音楽の特徴を感じ取って歌おう。」 歌唱曲「ソーラン節」

「日本の音階を使って旋律をつくろう。」(My Melody)

が本題材と関連する題材(教材)となる。国研の「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」の現状と課題より「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、一層よさを味わえるようにしていくこと、生活や社会における音楽の働きや音楽文化についての関心や理解を深めていくこと」が求められている。中学校の学習との関連を図り、これまでよりも一歩進めた(楽器体験などを積極的に取り入れた)学習指導を行うことによって、課題の解明につながると考える。

A 表現

- (1) 歌唱 イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
- (2) 器楽 イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。
- (3) 創作 ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。

B 鑑賞

- (1) ウ 我が国の郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

《中学校1年生の学習指導要領の内容》

(2) 児童の実態(男子15名、女子12名 計27名)

本学級には、素直で明るく学習や物事に前向きに努力する児童が多い。その反面、自分の思いや考え方を友達に伝えたり表現したりすることとなると、苦手意識を持ってしまう児童も少なくない。音楽の学習についても同様に、楽器の技能を高めて個人、グループで演奏することは得意とするが、自分の思いを歌声に乗せて豊かに表現したり、各自の考えを持ち寄ってグループで音楽づくりをしたりすることに、消極的になっている姿を見かけることが多い。

日本の音楽に関しては、昨年5月の運動会で「ソーラン節」でダンスを踊った後、北海道民謡「ソーラン節」と岩手県民謡「南部牛追い唄」の比較鑑賞をした。また、7月には「文化芸術による子供の育成事業」、太鼓と芝居の「たまっ子座」のワークショップに参加し、和太鼓をはじめ竹ぼらやひょうたんシェイカーなどの演奏方法を全員が団員に指導を受け、校内芸術鑑賞会で共演をすることにより日本の音楽に対する興味関心は高くなった。更に、今年も文化庁の同事業、邦楽創造集団「オーラJ」の邦楽器による伝説舞台「羽衣」を鑑賞し、特に活躍していた「箏」に対して興味を持つ児童が多くなった。

また前題材において、リコーダー二重奏曲「小さな約束」では、前半同じ旋律を音が一つに溶け合うように、二つに分かれて演奏する後半部分は互いの音を聴き合いながら演奏したり、合奏曲「リボンのおどり」では、曲のまとまりを考えながらパートを重ね、音色、反復回数、強弱などを話し合い、工夫しながら合奏を仕上げているグループ活動を行ったりしてきている。

《実態調査》 9月実施(回答者 男子15名 女子12名 計27名)

1 日本の楽器に関すること

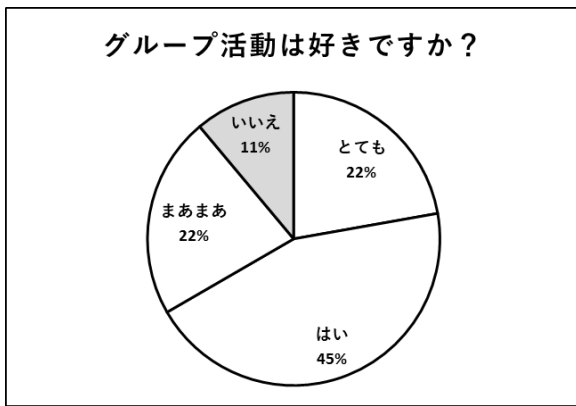
①それぞれの楽器に興味がありますか?

和太鼓	とても(11)	はい(10)	まあまあ(3)	いいえ(3)
尺八	とても(5)	はい(8)	まあまあ(11)	いいえ(3)
篠笛などの横笛	とても(4)	はい(12)	まあまあ(6)	いいえ(5)

でありながら「南部牛追い唄」からは「古めかしさ」は感じるものの、そういう回答は少なかった。おそらく、森林を歩きながらゆったりと流れる時間の中で、労働歌として歌われている曲の個性が音楽を通して児童に伝わっているからではないだろうか。また、興味深いことに、「うさぎ」37%「さくらさくら」52%がそれらを「好き」と回答し、「まあまあ」を含むと「うさぎ」74%「さくらさくら」70%の児童が、これら2曲を好む傾向にあることがわかった。つまり、児童は「暗い」「こわい」「さみしい」という言葉で表現したからと言ってその曲が嫌いな訳ではない。日本人の独特な感性から表現される「みやびやかな」「はかない」「もの悲しい」などといった言葉をまだ語彙として持っていないために、多くの意味を含んで「暗い」「こわい」「さみしい」と回答したのではないかとも考えられる。また、「いいえ（好まない）」と答えている児童は男子がほとんどであり、この時期の心の発達の差が結果に表れているのだと考える。

3 音楽の授業でのグループ活動に関すること

①グループで話し合い、工夫しながら活動（合奏、音楽づくり）をすることは好きですか？



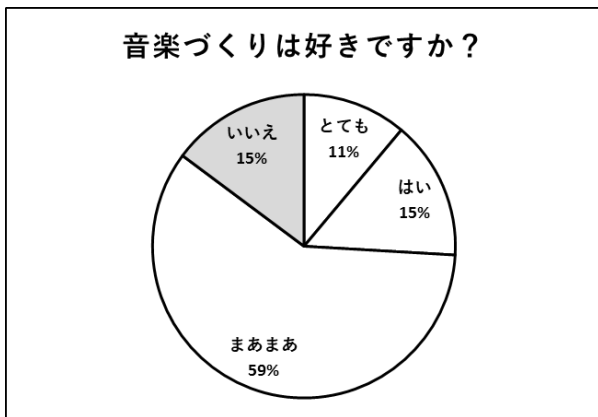
【考察】

グループ活動については、大きなトラブルもなく活動を進めていくことのできるクラスのため、「いいえ」を回答する児童は3人だった。その理由として、思い通りにならない（1人）、何をしたらよいかかわからなくなる（2人）、教えたり、教えられたりするのが苦手（1人）（複数回答あり）が挙げられている。本題材において、グループ内での個人を尊重し、互いのアイデアを理解し合える状況が生まれるように、1人→2人→4人と段階を踏んで活動人数を増やしていく。それにより各自が思いや意図を持って、満足して活動ができるようになる。

増やしていく。それにより各自が思いや意図を持って、満足して活動ができるようになる。

4 音楽づくりに関すること

①音楽を工夫してつくることが好きですか？



【考察】

音楽づくりについて、「まあまあ」「いいえ」と回答する児童が多いことに問題を感じている。「いいえ」の理由として「むずかしい」（3人）「アイデアが浮かばない」（5人）「声を使うことに抵抗がある」（3人）（複数回答あり）が挙げられる。これまでの経験の積み重ねの不足と、発達段階に合わせた内容を考慮できなかったところに原因があると考えられる。歌唱や器楽指導に力を入れて、児童が「表現方法を身に着けた」と手ごたえを感じても、特に上

学年においてそれらが音楽づくりに直結しにくいことも感じている。そのため、本題材では、常時活動としてはなかなか時間の確保ができない「音楽あそび」的な活動も取り入れ、「音楽づくり」のポケットを増やししながら、無理なく箏を使った「音楽づくり」の活動ができるように指導計画を立てた。

(3) 指導観

日本の音楽を扱うにあたって、第1次で、芸術鑑賞会で興味を持った箏の演奏を学習する。まず、楽器としての特徴や発音の仕組みを知らせ、いろいろな奏法を試すことにより箏に対する興味関心を高めるようにする。次に民謡音階（箏曲では乃木調子）に調弦された箏で「ひらいたひらいた」を演奏して基本的な奏法に慣れたり、旋律の動きを意識しながら短い音楽づくりをしたりする。さらに、既習曲「さくらさくら」（日本古謡）

も扱い、箏の持つ独特な美しい音色や響きを味わいながら、基本的な奏法を身に付けるようにしていく。合わせて都節音階（箏曲「さくら」では平調子）の持つ、物悲しさやはかなさなどの表情も感じ取りながら、わらべ歌などに多くみられる音楽の仕組み「問いと答え」を使って、簡単な会話をもとに音楽づくりの経験を増やしていく。

第2次では、これまでの学習をまとめる形で、絵本「みどりのスキップ」から受けたイメージをもとに、グループで個々の思いや意図を共有しながら、箏による音楽づくりを行う。この絵本は、桜の林を舞台に、桜の花の精「花かげちゃん」にはかない思いをよせる「みみずく」の様子が、それを取り巻く自然の様子と共に五感を刺激するように生き生きと描かれており、児童が音楽をつくっていく過程でイメージづくり等の大きな手助けとなると考えられる。予め、図書指導員の先生に読み聞かせをしてもらい、活動は音楽をつくってみたいと思う場面（指導者が予め決めておいた「音楽として表現しやすい」5つの場面）が共通する児童で編成したグループ（3、4人）で行っていく。グループ活動を行う際、本学年は核となる児童主導型の活動に陥りやすく、個々の思いや意図が次第に薄れていく傾向があるため、作品の完成までそれらを持続するために、次の3点の方法を取り入れる。

- ①「拍にのったリズム」の部分と「拍にのらない自由なリズム」の部分を選択できる。（グループ内）
- ②ワークシートを使って、グループの「音楽のイメージプラン」を基に自分のプランを立て、毎時間確認、必要な変更をしながら活動をする。
- ③1人→2人（つなぐ・重ねる）→4人（つなぐ・重ねる）と活動人数を段階的に増やす。

また、学習経験を振り返ることのできる掲示物を用意したり、音楽づくりのルールを提示したりして、苦手とする児童も安心して活動のできる環境も整えておきたい。

なお、今回、昔から和楽器の稽古や曲の暗譜のための手段の一つとされている「唱歌（しょうが）」を第2次より活用することにより、音の表情（旋律、リズム、奏法など）をより豊かに表現する方法としてのその有用性を感じるようにしていき、特に「コロリン」と唱歌風の言葉をつけた児童の自作奏法を音楽づくりにも活かしていこうと考えている。

第3次は、日本の音階である都節音階と律音階、2種類の音階で書かれた「子もり歌」をそれぞれの感じに合わせた歌い方を工夫する学習を行う。第1次、第2時で箏の演奏を通じて味わい、感覚的に捉えてきたわらべ歌や日本古謡などの日本の音楽の曲想は、それぞれを構成する音階に因ることが大きいことを、ここでは楽譜を通して視覚的に確認する。合わせて、旋律の特徴にも目を向けながら「子もり歌」をより身近なわらべ

本題材で「箏」を和楽器として取り上げる利点

- ①児童のだれもが、箏の音色から日本らしさを感じることができる。
 - ②児童全員が初めて演奏する楽器のため技能の差が全くない。
 - ③漢数字等とそれらの間隔で音高と音価が示されている伝統的な縦書きの楽譜を使用するため、読譜の苦手な児童でも抵抗なく演奏ができる。
 - ④5音階の音のみで調弦しておくことができる。
 - ⑤1音でも様々な奏法によって豊かな表現ができる。
 - ⑥オノマトペのような言葉（自作唱歌も含む）を使って音色、音質を表現することができる。
- などが挙げられる。

た（民謡）として捉えられるように歌うようにしていきたい。

3 題材の目標

- 日本の旋律のもつ特徴に関心を持ち、歌ったり奏法に慣れながら箏を演奏したりする。
- 日本の旋律と箏の音色の特徴や美しさを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かして箏の音楽をつくる。

4 題材の評価規準

題材の評価規準		
音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①日本の音楽や音階に興味・関心を持ち、楽器の音色に気を付けて、和楽器を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②日本の音階に興味・関心を持ちその音を使って旋律をつくったり組み合わせたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 ③日本の音楽や音階に興味・関心をもって、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①日本の音階の特徴を聴き取り、その働きによって生まれるよさや面白さを感じ取りながら、いろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かし、どのように音楽をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。	①範奏を聴いたり、楽譜を見たりしながら、楽器の特徴を生かして箏を演奏している。 ②箏のいろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かしながら、見通しをもって箏の音楽をつくっている。 ③旋律の特徴を感じ取り、曲想を生かした表現で歌っている。

5 研究の視点について

【視点2】小中連携を関連させた題材構成（指導計画）

○中学校へのつながりを考えた題材構成

小学校では、民謡やお囃子、和楽器の鑑賞や和楽器に触れる体験などを通して、我が国の音楽や郷土の音楽に触れ、児童の興味・関心を高めていく活動に取り組んでいる。しかし、その活動は、我が国の音楽に触れ、雰囲気を感じる程度にとどまっていることが多い。しかし、中学校までを見通してみると、小学校での活動をより充実させていくことができるのではないかと考えた。

そこで、本題材では、日本の音階のもつ雰囲気を感じ取りながら歌ったり、平調子を用いた箏の演奏や音楽づくりに取り組んだりすることを通して、我が国の音楽文化についての関心をさらに深め、その特徴を感じ取ったり、美しさを味わったりすることができるよう、題材を構成した。これまでに親しんできたわらべうたから日本の音階の特徴を感じ取ることで、今まで漠然と日本の音楽と感じていたものを、その特徴について十分に味わえるようにした。また、中学校でも旋律をつくる手がかりとして用いられている平調子の特徴を感じ取りながら演奏に取り組んだり、箏の奏法を用いながら音楽づくりに取り組んだりすることは、中学校での学習に直接結びついていくものと考えた。

このように、小学校での活動を充実させることで、我が国の音楽に対する興味・関心や経験をより深めることができる。そして、時間を確保することが難しい中学校でも、小学校での経験を思い出し、同じような活動をさらに積み重ねていくことで、自分なりの表現を工夫したより豊かな創作活動につながっていくだろうと考える。

6 題材の指導計画

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
ねらい 日本の音階の特徴を感じ取りながら、箏の演奏ができるようにする。			
第 一 次	第 1 時	<p>○箏の各部分の名称や扱いについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な扱いや各部分や弦の名前を知り、ワークシート①に書き込む。 <p>○2人一組になり、箏の音色や乃木調子の音階の特徴や響きを感じながら、いろいろな弾き方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・爪の付け方を理解し、いろいろな弾き方を試す。(親指のみ) ・爪を使わない弾き方も工夫する。 ・弾き方や弾く場所によって多彩な音色が生まれることを理解する。 ・5つの音を使って音階が構成されていることを知り、そこから日本らしい雰囲気や響きが生まれてくることを感じ取る。 <p>○「ひらいたひらいた」の前半(4分の2拍子6小節)を演奏しながら、箏の演奏に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や基本的な親指の使い方を身に付ける。 ・弦の名前(数字)の入った五線譜を見ながら練習をする。 ・「ラソミ」→「コロリン」(唱歌)の奏法(弾き方=奏法)に慣れる。 ・待っている児童は、楽譜を数字で読んだり、一の弦(ミに調弦)でオステイナー(パターンの繰り返し)をつくり重ねたりする。 	<p>日本の音楽や音階に興味・関心をもち、楽器の音色に気を付けて、和楽器を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関①】</p>
		<p>○「ひらいたひらいた」と「あんたがたどこさ」などのわらべうた(既習曲)を歌い比べながら、日本の音階の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの演奏と一緒にわらべうた(右)を歌いながら、旋律(同じ調に揃えたもの)や曲想が似ていることに気づき、構成音が同じであることを感じ取る。 ・箏でも他のわらべうたを演奏し、箏の調弦音から5つの音(ミソラシレ)で構成された音楽であることを知る。 	<p>既習曲として扱う曲 「ひらいたひらいた」 「あんたがたどこさ」 「なべなべそこぬけ」 「おちゃらかほい」</p>

	第2時	<p>○「ひらいたひらいた」の音を使って、「コロリン」を含む旋律を即興的につくり、4分の4拍子2小節ずつのリレー奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひらいたひらいた」の歌の中に「コロリン」が何度も出てくることを確認する。 ・「巾」→「一」方向だけでなく、様々な旋律の動きを意識して演奏する。 <p>○箏の演奏についてワークシート①2～5に振り返りを書く。</p> <p>○平調子について知り音階（都節音階）の特徴を感じながら「さくらさくら」の範奏を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乃木調子とは違った平調子の響きの美しさを味わいながら聴き、それぞれの音階の感じの違いを話し合う。 ・2回目から楽譜された唱歌を歌いながら聴き、唱歌が音を表現していることを感覚的に理解する。 <p>○2人一組になり、楽譜を見ながら1～3フレーズを練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の楽譜の読み方を理解する。 ・前時で身に着けた奏法「コロリン」を思い出し、全員で弦の名前と「コロリン」（一部）を声に出して読みながら、箏を練習する。 	<p>範奏を聴いたり、楽譜を見たりしながら、楽器の特徴を生かして箏を演奏している。</p> <p>【技①】</p>
第1次		<p>○交代しながら、伴奏に合わせて「さくらさくら」を演奏する。</p> <p>○数字（弦の名称）を言いながら全曲を歌い、次時の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復している部分を確認する。 	
	第3時	<p>○「さくらさくら」を全曲演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字を言ったり、唱歌を歌ったりしながら最後のフレーズを練習する。 ・フレーズの反復を意識しながら全曲を演奏する。 <p>○唱歌を言い演奏者の手元を見ながら後奏を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唱歌に対応する奏法はどんなものがあるかよく観察する。 ・音色の面白さや表現の細やかさに気づく。 <p>○各自で奏法を考え唱歌風のオノマトペを付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏のタブ譜に説明と奏法（線や図）を書き込む。 <p>○箏の演奏についてワークシート②に振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の各名称を復習する。 ・演奏の振り返りを書く。 ・「みどりのスキップ」について感想と表現したい場面を書く。 	<p>範奏を聴いたり、楽譜を見たりしながら、楽器の特徴を生かして箏を演奏している。</p> <p>【技①】</p>
ねらい 日本の音階を使って拍節的な旋律と拍節的でない旋律をつくり、1つの音楽にまとめる。			

- 前時に考えた唱歌風のオノマトペを聴き合う。
 - ・箏を使って自分の奏法を友達に伝え、感じたこと「○○な感じの音」「△△のような音」等の感想をもらう。
- 「みどりのスキップ」のイメージをもとにした、音楽づくりをする手順を知る。
 - ・音楽づくりの流れをつかみ、見通しを持つ。
- グループに分かれ互いの思っていることを伝え合い、A-B-A (A') の形式に沿ってグループとしての音楽に変換するためのイメージをわかり易くまとめる。
 - ・予め教師が場面希望と演奏技能を基に、決めておいた7つのグループに分かれる。(場面重複あり)
 - ・個々の考えていることをグループの中で伝え合う。
 - ・例示された「6の場面」を参考に、「音楽のイメージプラン」の表にグループの考えを話し合いながらわかり易くまとめる。

例示する「音楽のイメージプラン」

A	B	A'
おおぜいのスキップ (タッタ)の足音	ねごとをいって、 ねているみみずく	桜林にひといきに なだれこむスキップ
だんだんあつまって くる感じ ●スキップのリズム	ゆったりとした 感じ ●時々、低い音	勢いよく流れる感じを くわえる ●スキップのリズムと 速くなめらかなリズム

日本の音階に興味・関心をもち、その音を使って旋律をつくったり組み合わせたりする学習に主体的に取り組もうとしている。

【関②】

<p>第 二 次</p>	<p>第 5 時</p>	<p>○問いと答えの音楽を、会話文をもとにしてつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたには「ひらいたひらいた」「はないちもんめ」のように、歌詞が「問いと答え」になっている曲があることを確認する。 ・教師の用意した簡単な会話文を使って、言葉の抑揚を意識しながら旋律をつくる方法を知る。 ・平調子を使い、言葉の抑揚をもとにして、2人ずつ問いと答えの音楽を即興的につくる。 ・奏法「コロリン」を意識して使うようにする。 <p>○「みどりのスキップ」の「音楽のイメージプラン」を確認し、つくるところをグループ内で分担し（A または B の部分）、各自で自分のプランを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A または B の部分のどちらを「拍にのったリズム」または「拍にのらない自由なリズム」の音楽にするのか、それぞれのルールを聞いた後、話し合っ て決める。（以下「拍にのったリズム」の音楽をつくる→R パート 「拍にのらない自由なリズム」の音楽をつくる→F パート） ・グループ内で R または F をつくる人を決める。（2人ずつ 3人のところは2人と1人） ・「音楽のイメージプラン」に合わせて、各自試し弾きをしながら自分のプランを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>R パート…「問いと答え」の音楽 ワークシート③の自分のプランをもとに2人で旋律のつくり方を決める。 「問い」と「答え」を分担する。 旋律をつくるための歌詞が必要な場合、2人で考えてつくる。</p> <p>F パート…自由なリズムの奏法を構成した音楽。 第3時に全員がつくった奏法なども参考にして、奏法を個人で考える。 演奏人数（2～4人）を決め「構成の仕方の例」から2人（または個人）で構成を決める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・R パートが2人の場合、自分のプランの「旋律のつくり方」は2人で決め、会話文をもとにしてつくる場合は、文とおおよその抑揚を考える。 <p>○自分のプランに沿って、R は「旋律」をつくったり、F は選んだ奏法を工夫してつなぎ合わせたりして、各自音楽の一部をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった「旋律」やつなぎ合わせた「奏法」は「箏楽譜」（箏のタブ譜）に記録し、「音楽のイメージプラン」の表に貼っておく。 	<p>日本の音階の特徴を聴き取り、その働きによって生まれるよさや面白さを感じ取りながらいろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かし、どのように音楽をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。【創①】</p>
	<p>第 6 時 （ 本 時 ）</p>	<p>○前時につくった音楽を、R、F パートそれぞれの中で聴き合い、1つにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F は2人のプランをつないだり重ねたりしてまとめる。 ・R パートは続く感じの部分と終わる感じの部分（ミまたはシ…三、五、八十、巾の弦で終わる）を意識しながら、「問いと答え」の音楽にまとめる。 	<p>箏のいろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かしながら、見通しをもって箏の音楽をつくっている。【技②】</p>

第二次	第6時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれがさらに人数を増やして音を重ねたり、加えたりするプランがある場合（低音ミを入れる、合いの手を入れる、同じ奏法の数を増やすなど）互いに協力し合う。 ・「音楽のイメージプラン」の表に記録をしておく。 <p>○まとまりやつながりが生み出すよさを感じ取りながら、ひとつのまとまりのある音楽にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで聴き合い、アドバイスし合いながら、それぞれがスムーズに通せるようにする。 ・RとFはどのように間をつないでいくのか、合図なども合わせて考える。 ・できたグループは各自の座る位置や箏の並べ方も考える。 	
	第7時	<p>○グループ全員で、はじめ（始め方や前奏）とおわり（終わり方や後奏）を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた曲の流れを大切に考えるようにする。 <p>○全てを通して練習し、できたところからその場で発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表前にルールの確認をする。 ・「音楽のイメージプラン」を読んでから、発表をする。 ・互いの良さを認めながら、さらにイメージに近づくためのアドバイスをし合う。 ・よいところやアドバイスは付箋に書き、必ず伝わるようにする。 <p>○アドバイスをしながら、グループでよりまとまった音楽が演奏できるように話し合い、発表会に向けてグループ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで必要だと判断した場合、短時間でできる範囲内で修正をする。 	<p>箏のいろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かしながら、見通しをもって箏の音楽をつくっている。</p> <p>【技②】</p>
ねらい 日本旋律の美しさを味わいながら演奏したり、歌ったりする。			
第三次	第8時	<p>○担任の先生や図書指導員の先生を招いて、発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時同様、「音楽のイメージプラン」を読んでから発表をする。 ・先生方に感想をもらう。 <p>○まとめとして、教科書の律音階と都節音階の「子もり歌」を、それぞれの感じの違いを味わいながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでを振り返り、「ひらいたひらいた」がつくられている民謡音階に似ている律音階と「さくらさくら」がつくられている都節音階から生じる感じの違いを意識しながら、それぞれの歌に合った速度や強弱、声の出し方について話し合う。 ・範唱を聴き、音階の違いだけでなく、歌い方によって音楽の印象が変ることを感じ取る。 ・話し合ったことや感じ取ったことをもとに、二つの旋律の特徴を生かし、歌い方に気を付けて「子もり歌」を歌う。 <p>○ワークシートにこれまでの振り返りを書く。</p>	<p>日本の音楽や音階に興味・関心をもって、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関③】 旋律の特徴を感じ取り、曲想を生かした表現で歌っている。</p> <p>【技③】</p>

7 本時の学習（6/8）

（1）目標

日本の音階を使って拍節的な旋律とそうでない旋律をつくり、さらに1つの音楽にまとめる。


（2）展開

時配	○学習内容 ・学習活動	教師のかかわり◆評価規準（評価方法）
10	<p>1 ルールを確認しながら箏を演奏する。</p> <p>・「拍のあるリズムの音楽」パート（以下 R パート）は、前時につくった旋律を拍にのって2人ずつリレー演奏する。</p> <p>・「拍のない自由なリズムの音楽」パート（以下 F パート）は、グループごと2人同時に演奏を試す。</p>	<p>○個人のワークシート③の内容と実際の演奏が食い違っている児童には、事前に支援をしておく。</p> <p>○個人のワークシート③に目を通した後、手元に前回掲示した箏の楽譜（箏のタブ譜）を置いて、確認しながら演奏するようにする。</p> <p>○音楽がおわる感じにするためには、最後の音が三、五、八、十、巾（ミカシ）の弦にすると良いことを伝える。</p> <p>○Rパートは、拍に乗りながら、演奏する旋律が「続く感じ」または「終わる感じ」のものか意識を持つようにする。</p> <p>○Rパートは、低音や合いの手を加えた感覚を得られるように教師が箏で音を加える。</p> <p>○Fパートは、2人が重なるとどのような感じになるのかを意識しながら演奏するようにする。</p>
15	<p>2 本時の目標を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「みどりのスキップ」のイメージを大切に、音楽をまとめていこう。</p> </div> <p>3 前時につくったものを、R、Fパートごとに1つの音楽にまとめる。</p> <p>・Rパートは「続く感じ」の部分と「終わる感じの部分」に気を付けて「問いと答え」の音楽をつくる。</p> <p>・Fは2人のプランをつないだり重ねたりしてまとめる。</p>	<p>○速さは、グループの「音楽のイメージプラン」に合わせ、調整していくようにする。</p> <p>○組み合わせ方により、つくった旋律が短くなったり、変形したりしてもよいことを伝える。</p> <p>○箏の弦のどの部分を互いに演奏するのか、音色にも意識をして決めるよう助言する。</p> <p>○短すぎる場合、反復すると音楽としてまとまってくることを知らせる。</p> <p>○ひとりでどちらかのパートをつくっている場合は、「反復」を利用することで音楽の面白さが得られることを伝え、活動が停滞しないように、早めに全員で聴き合いを始めるよう促す。</p> <p>○まとめていく途中で、さらに音を重ねたり、加</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ R、F パートそれぞれ、あるいはどちらかで人数を増やして音を重ねたり、加えたりするプランがある場合は（同じ奏法の数を増やす、低音ミを入れる、合いの手を入れるなど）互いに演奏を手伝うようにする。 ・「音楽のイメージプラン」表用の付箋に記録をしておく。 <p>1 5 4 まとまりやつながりが生み出すよさを感じ取りながら、R、Fをひとつのまとまりのある音楽にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で互いに聴き合い、アドバイスし合う。 ・R、Fそれぞれがスムーズに通せるようになってから、全体を通してみる。 ・RとFのつなぎ目は、どのようにするのか、合図なども合わせて考える。 <p>5 5 本時を振り返り、次時の活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の楽譜（箏のタブ譜）と構成の仕方やつなぎ方などを書いた付箋を「イメージプラン」に貼る。 	<p>えたりする案が出てきた場合も、加えてよいことにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つくった児童のプランを尊重しながら手伝いをするように伝える。 ○修正箇所は、必ず箏の楽譜（箏のタブ譜）などに書き込むようにする。 ○途中経過として、まとまってきたRパート、Fパート各1グループが発表することにより、まとめ方を再確認できるようにする。 ○グループ全員で音楽をまとめていく活動に入ることを知らせる。 <p>○「音楽のイメージプラン」で順番を確認し、各パートがきちんと整ったら、試しにつないで演奏し、それぞれがその後、修正を加えていくことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○間断なくつなぐ、間を入れる、新たに音を加えるなどの方法があることを伝える。 ○できたグループは各自の座る位置や箏の並べ方も考えていくように助言する。 <p>○次回、形が整ったグループから中間発表を行い、より「みどりのスキップ」のイメージに近づく音楽にしていくことを確認する。</p> <p>◆箏のいろいろな音楽表現や音楽の仕組みを生かしながら、見通しをもって箏の音楽をつくっている。【技③ 演奏聴取 ワークシート】</p>
--	--	--

- 1 () グループ
- 2 自分がつくる部分 () イメージプランのAとA' () イメージプランのB
- 3 グループの「音楽のイメージプラン」表の下の部分(感じなど)を写してから、「拍にのらない自由なリズム」の音楽についての自分のプランを書こう。

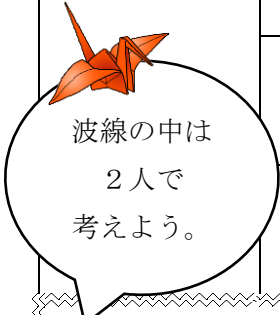


グループのイメージ		
↓		こんな感じにつくってみようかな。
書くことができる ところだけで かまいません。 	速度	(例) ゆったり あるく速さ 急いで
	強弱	(例) はじめは弱く→だんだん強く→終わりは強く
	音色	◎弦を弾く位置でも音色は変わる
	リズム	(例) 細かいリズム・ゆったり(長く伸びる音符が多い)リズム・スキップのリズムなど
箏の奏法(唱歌)		◎奏法の唱歌を2つ以上決めて、ここに書いておこう。 ◎選んだ2つ以上の唱歌をつないだり、重ねたりしたら、 箏楽譜 に書こう。
構成		●「構成の仕方や表現の工夫の例」から2つ以上(できれば3つ)選ぼう。 1 選んだ記号 () () () 2 (A, A'の時) 選んだ記号 () () () <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ア. だんだんふやす イ. だんだんへらす ウ. おいかける(カノン) エ. みんないっしょ オ. オスティナートと自由なタイミング カ. 問いと答え キ. つなぐ(リレー) ク. 全休止(ポーズ) ケ. サンドイッチ コ. 自分で考えた構成 </div>
演奏する人数		() 1人 () 2人 () 3人 () 4人

- 1 () グループ
- 2 自分がつくる部分 () イメージプランのAとA' () イメージプランのB
- 3 グループの「音楽のイメージプラン」表の下の部分(感じなど)を写してから、「拍にのったリズム」の音楽についての自分のプランを書こう。



グループのイメージ		
↓		
自分のプラン		こんな感じにつくってみようかな。
書くことができる ところだけ かまいません	速度	(例) ゆったり あるく速さ 急いで
	強弱	(例) はじめは弱く→だんだん強く→終わりは強く
	音色	◎弦を弾く位置でも音色は変わる
	リズム	(例) 細かいリズム・ゆったり(長くのびる音符が多い)リズム・スキップのリズムなど
旋律のつくり方 (2つ選んでもよい)		<input type="checkbox"/> 教科書44ページを参考にして旋律の動きを決める。 <input type="checkbox"/> 「コロリン」を2人で使い「問いと答え」がわかりやすくする。 <input type="checkbox"/> 会話文をつくって歌にしてからつくる。 <input type="checkbox"/> その他 ()
会話文		問い① 答え① 問い② 答え②
構成 (いくつでも)	1	<input type="checkbox"/> 低音をつける () 合いの手を入れる <input type="checkbox"/> くり返しのふし(オスティナート)を重ねる
	2	<input type="checkbox"/> 低音をつける () 合いの手を入れる <input type="checkbox"/> くり返しのふし(オスティナート)を重ねる
演奏する人数	1	() 2人 () 3人 () 4人
	2	() 2人 () 3人 () 4人



波線の中は
2人で
考えよう。

5年 組 番名前	
	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
	八
	九
	十
	斗
	為
	巾
マイ唱歌	
説明	

5年 組 番名前	
	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
	八
	九
	十
	斗
	為
	巾
マイ唱歌	
説明	

5年 組 番名前	
	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
	八
	九
	十
	斗
	為
	巾
マイ唱歌	
説明	

5年 組 番名前	
	一
	二
	三
	四
	五
	六
	七
	八
	九
	十
	斗
	為
	巾
マイ唱歌	
説明	